

「ヨコハマトリエンナーレ 2017」

開催概要決定！

－ 構想会議メンバーによる検討がスタートします －

横浜市で3年に1度行われる現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」の第6回展を2017年8月4日から11月5日まで横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館を主会場として開催します。

第6回展となる「ヨコハマトリエンナーレ2017」では、過去の開催実績を踏まえつつ、次なるステージへと進むべく、国際展の今後のかたちやさらなる可能性を探求し、視覚体験に限定されない「対話・議論」と「共有・共生」の場づくりを目指します。

そのため、ジャンルや世代を超えた9名の専門家から構成される構想会議にて、これからの時代に必要な価値を議論し、展覧会のコンセプトを検討します。

なお、「ヨコハマトリエンナーレ2017」の構想は今秋発表する予定です。

【メンバー】

スハーニャ・ラフェル
(Suhanya RAFFEL)

ニューサウスウェールズ州立美術館副館長
兼コレクション担当ディレクター

スプツニ子！
(Sputniko!)

現代美術家
マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教

高階 秀爾
(TAKASHINA Shuji)

美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授

リクリット・ティラヴァーニャ
(Rirkrit TIRAVANIJA)

現代美術家、コロンビア大学美術学部教授

鷺田 清一
(WASHIDA Kiyokazu)

哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長

養老 孟司
(YORO Takeshi)

解剖学者、東京大学名誉教授

(アルファベット順)

以下、ヨコハマトリエンナーレ2017 ディレクターズ

逢坂 恵理子
(OSAKA Eriko)

横浜美術館館長

三木 あき子
(MIKI Akiko)

キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナル
アーティストックディレクター

柏木 智雄
(KASHIWAGI Tomoh)

横浜美術館副館長、主席学芸員



ヨコハマトリエンナーレ 2017 開催概要

名称:ヨコハマトリエンナーレ 2017

会期:平成 29 年 8 月 4 日 (金) から 11 月 5 日 (日) まで ※第 2・4 木曜日休場

開場日数: 88 日間

主会場: 横浜美術館 (横浜市西区みなとみらい 3-4-1)

横浜赤レンガ倉庫 1 号館 (横浜市中区新港 1-1-1)

主催: 横浜市、(公財) 横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

ディレクターズ: 逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄

横浜美術館



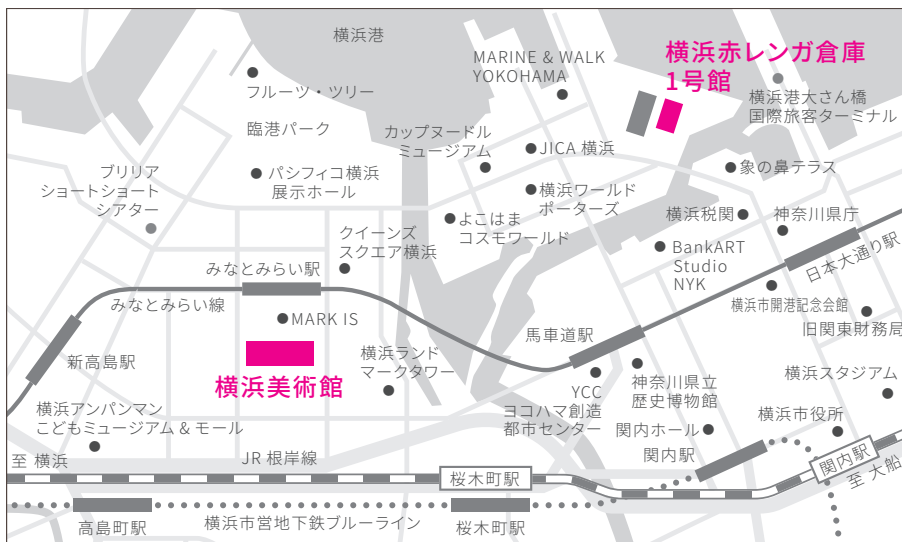
設計: 丹下健三
 丹下健三・都市・建築設計研究所
 竣工: 1989 年
 構造: 鉄骨・鉄筋コンクリート造
 延床面積: 26,829 m²

撮影: 笠木靖之

横浜赤レンガ倉庫 1 号館



設計: 妻木頼黄
 竣工: 1913 年
 構造: 煉瓦組積造
 延床面積: 5,575 m²



交通アクセス

横浜美術館 / 横浜市西区みなとみらい 3-4-1

みなとみらい線 (東急東横線直通) 「みなとみらい駅」
 〈3 番出口〉から、マークイズみなとみらい〈グランドガ
 レリア〉經由徒歩 3 分、または〈マークイズ連絡口〉(10
 時〜) から徒歩 5 分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」
 から〈動く歩道〉を利用、徒歩 10 分。

横浜赤レンガ倉庫 1 号館 / 横浜市中区新港 1-1-1

みなとみらい線 (東急東横線直通) 「馬車道駅」または
 「日本大通り駅」より徒歩約 6 分、「みなとみらい駅」よ
 り徒歩約 12 分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」より
 汽車道經由徒歩約 15 分、「関内駅」より徒歩約 15 分。

横浜トリエンナーレ組織委員会 (2016.4.1 現在)

名誉顧問 宮田 亮平 (文化庁長官)
 名誉会長 林 文子 (横浜市長)【代表】
 初井 勝人 (NHK 会長)
 渡辺 雅隆 (朝日新聞社社長)

委員 市村 友一 (朝日新聞社企画事業本部長)
 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)
 大美 慶昌 (NHK 事業部長)
 澤 和樹 (東京藝術大学学長)
 澄川 喜一 ([公財] 横浜市芸術文化振興財団理事長)【委員長】
 高階 秀爾 (大原美術館館長)
 建昌 哲 (多摩美術大学学長)
 柄 博子 ([独法] 国際交流基金理事)
 中山こずゑ (横浜市文化観光局長)
 オブザーバー 加藤 敬 (文化庁文化部芸術文化課長)

※会長、委員は 50 音順



横浜トリエンナーレ
 YOKOHAMA TRIENNALE

本資料についてのお問合せ | 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606

E-MAIL press@yokohamatriennale.jp

✧ 構想会議メンバー プロフィール

スハーニャ・ラフェル
(Suhanya RAFFEL)

ニューサウスウェールズ州立美術館副館長兼コレクション担当ディレクター
スリランカ生まれ。シドニー在住。オーストラリアのクイーンズランド州立美術館/ギャラリー・オブ・モダン・アートでアジア太平洋地域の現代美術コレクションの形成に携わり、2002年より同館主催のアジア・パシフィック現代美術トリエンナーレを主導。「Andy Warhol」(2007-08年)、「The China Project」(2009年)、「Go East」(2015年)などの企画展も手掛ける。グッゲンハイム美術館のアジアン・アート・カウンシルメンバー(2009-14年)等要職を歴任。2013年より現職。

スプツニ子!
(Sputniko!)

Photo by Tomoya Uehara

現代美術家、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教
1985年東京生まれ。ボストン/東京在住。インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を卒業後、英国国立芸術学院(RCA)デザイン・インタラクティブ専攻修士課程を修了。在学中よりテクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。主なグループ展に「Talk to Me」(2011年、ニューヨーク近代美術館)、「東京アートミーティングうさぎスマッシュ」(2013年、東京都現代美術館)など。FORBES JAPAN「未来を創る日本の女性10人」に選出(2014年)。2013年より現職。

高階 秀爾
(TAKASHINA Shuji)

美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授
1932年東京生まれ。東京大学教養学部卒業。フランス政府招聘留学生として渡仏(1954-59年)。東京大学教授、国立西洋美術館館長等を経て、2002年より大原美術館館長。2015年より日本芸術院会員。専門はルネサンス以降の西洋美術史。日本近代美術についても造詣が深い。『日本近代美術史論』(ちくま学芸文庫)、『ルネサンスの光と闇:芸術と精神風土』(中公文庫、芸術選奨文部大臣賞)などの著書多数。2012年文化勲章受章。

2015年より日本芸術院会員。専門はルネサンス以降の西洋美術史。日本近代美術についても造詣が深い。『日本近代美術史論』(ちくま学芸文庫)、『ルネサンスの光と闇:芸術と精神風土』(中公文庫、芸術選奨文部大臣賞)などの著書多数。2012年文化勲章受章。

リクリット・ティラヴァーニャ
(Rirkrit TIRAVANIJA)

Photo by Anette Aurell

現代美術家、コロンビア大学美術学部教授

1961年アルゼンチン生まれ。現在、ニューヨーク、ベルリンおよびタイのチェンマイを拠点に活動するタイ人作家。同世代の作家のなかでも最も影響力のある作家のひとり。オブジェ制作、公的・私的パフォーマンス、教育ほか多様な行為を組み合わせ、メディアの形態にとらわれない作品づくりをしている。コロンビア大学美術学部で教鞭を執るほか、作家、美術史家、キュレーターで構成されるコレクティブ・プロジェクト「ユートピアステーション」の創設メンバー兼キュレーター。チェンマイを拠点とする教育系・環境系のプロジェクト「ザ・ランド・ファウンデーション」の理事も務める。

鷲田 清一
(WASHIDA Kiyokazu)

哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長

1949年京都市生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学総長を経て、現職。哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなう。主な著書に『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞)、『「ぐずぐず」の理由』(角川選書、読売文学賞)、『「聴く」ことの力』(ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞)がある。現在「折々のことば」(朝日新聞)連載中。2004年紫綬褒章受章。

養老 孟司
(YORO Takeshi)

解剖学者、東京大学名誉教授

1937年鎌倉市生まれ。東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入り、その後同大学医学部教授。1995年退官。人間社会の様々な事象を脳の機能や仕組みと結びつけて評論。『解剖学教室へようこそ』(筑摩書房)、『からだの見方』(筑摩書房、サントリー学芸賞)、『唯脳論』(ちくま学芸文庫)など著書多数。『バカの壁』(新潮社、毎日出版文化賞特別賞)は、2003年ベストセラー第1位、同年流行語大賞受賞。ムシテックワールド館長、京都国際マンガミュージアム館長も務める。

(以上、アルファベット順)

—ヨコハマトリエンナーレ2017 ディレクターズ

逢坂 恵理子
(OSAKA Eriko)

横浜美術館館長

国際交流基金、ICA名古屋を経て、水戸芸術館現代美術センター主任学芸員(1994-96年)、同センター芸術監督(1997-2006年)、森美術館アーティスティック・ディレクター(2007年-09年1月)。第49回ヴェネチア・ビエンナーレ(2001年)で日本館コミッションナーを務め、「蔡國強展: 帰去来」(2015年)を企画するなど数々の現代美術展を手掛ける。2009年4月より現職。ヨコハマトリエンナーレ2011では総合ディレクターを、2014では組織委員会委員長を務めた。

三木 あき子
(MIKI Akiko)

キュレーター

パレ・ド・トーキョー(パリ)チーフ/シニア・キュレーター(2000-14年)、ヨコハマトリエンナーレ2011アーティスティック・ディレクター等歴任。第46回ヴェネチア・ビエンナーレ「トランスカルチャー」(1995年)、「台北ビエンナーレ: 欲望場域」(1998年)、「荒木経惟: 私・生・死」(2005年)、「チャロ! インドア」(2008年)、「杉本博司: 今日 世界は死んだ」(2014年)、「村上隆の五百羅漢図」(2015年)等アジア・欧州にて多くの企画を手掛ける。『Insular Insight』(Lars Müller, 2011年 DAM 建築本賞)等、共著・共編多数。現在、ベネッセアートサイト直島国際ナショナルアーティスティックディレクターも務める。

柏木 智雄
(KASHIWAGI Tomoh)

横浜美術館副館長、首席学芸員

専門は幕末から現代までの日本美術。1988年に横浜美術館準備室に入り、同館にて「斎藤義重による斎藤義重展 時空の木ー Time・Space, Woodー」(1993年)、「紫紅と靱彦展」(1995年)、「菅木志雄: スタンス」(1998年)、「李禹煥 余白の芸術展」(2005年)など。共著書に『明るい窓: 風景表現の近代』(大修館書店)、『失楽園 風景表現の近代』(大修館書店)、『はじまりは国芳—江戸スピリットのゆくえ』(大修館書店)、『通天楼日記 横山松三郎と明治初期の写真・洋画・印刷』(思文閣出版)など。



✧ 横浜トリエンナーレとは

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度行なわれる現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。

✧ 横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命	横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。				
目標	アートでひらく	ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。			
	世界とつながる	ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。			
	まちにひろがる	創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。			
行動指針	世界水準	次世代の育成	市民参加	祝祭性	賑わいづくりと経済活性化

✧ これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)	2014年(第5回)
テーマ/ 展覧会タイトル	メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで知ることができるか?—	華氏451の芸術： 世界の中心には忘却の海がある
ディレクター/ キュレーター	[アーティストック・ディレクター] 河本信治 建島 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ベアトリス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティストック・ディレクター] 三木あき子	[アーティストック・ディレクター] 森村泰昌
会期 (開場日数)	9月2日—11月11日 (67日間)	9月28日—12月18日 (82日間)	9月13日—11月30日 (79日間)	8月6日—11月6日 (83日間)	8月1日—11月3日 (89日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア (新港ふ頭展示施設) ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア (新港ふ頭展示施設)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)/1コレクション	65組(79作家)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)*	約35万人(約35万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)	約21万人(約21万人)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚
ボランティア/ サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催:(公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜市 (公財)横浜市芸術文化振興財団 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会

*入場者数は延べ人数

本資料についてのお問合せ | 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606

E-MAIL press@yokohamatriennale.jp

